

# 「あかん遊久の里」経営鶴雅リゾート 大西 希 常務

連載第3弾

連載再開第3弾は、北海道の憧れの旅館ランキング上位常連「あかん遊久の里」などを経営する鶴雅リゾートの大西希常務(35)。イラン・バウンドの取り込み力を注ぎ、アイヌ文化へのリスベクトをバックボーンにしたアドベンチャーリズムを推進している。北海道命名150年。その視線は内にも外にも、そして過去にも未来にも向けられている。

## イランカラプテ

青山千景がリーダー直撃  
21世紀のアドベンチャー

「アイヌ語で「こんにちは」は「これは「考える」!!」



「アイヌ語で「こんにちは」は「これは「考える」!!」

### 台湾勤務の経験生かし イランカラプテに注力!!

「真いた名刺に「イランカラプテ」とありますが、アイヌ語の「こんにちは」ですね。北海道民のシャイな性格ととてもマッチしている言葉です」  
「はい。北海道民のシャイな性格ととてもマッチしている言葉です」  
「シャイな性格と?」  
「あなたに気持ちにそ

「アイヌゆかりの阿寒で幼少期を過ごしています。何かエピソードを聞かせてください」  
「祖父がオープンした阿寒ランドホテル(現遊久の里)の裏の湖畔に家がありました。プカプカと流

「当時、海外から北海道へ来る旅行者の8割強が台湾の方でした。彼らと話せば外から見た北海道の良さを学べると思ったのです」



「鶴雅ビュッフェダイニング札幌」に飾られているフクロウの木彫りを手に笑顔の大西常務(左)と青山

### 今年で北海道命名150年 新しいことにも挑戦を

北海道命名150年を迎えました。「北海道をしっかりと知るチャンス。北海道は歴史がないと言われる場合がありますが、そんなことはありません。弥生時代が扱っているだけで、縄文時代から時を刻んで今がある。アイヌの方たちが暮らしてきたこの場所に移住してきた私たちが伝えていけることはたくさんあります」  
アイヌの文化や歴史を発信するイベントなどは

「今年、阿寒の森でフォレスト・ルミナ(プロジェクションマッピング)をする計画を立てています。自然とともに生きてきたアイヌの物語を映し出します」  
海外の方にも見やすいですね。  
「経産省の支援で推進している自然、文化、アウトドアを融合したアドベンチャー・ツーリズムの一端です。アイヌ文化をはじめ、北国の豊かな知恵がある北

「ヤイコシラムスイパ」。大西常務が色紙に記した座右の銘はアイヌ語で「考える」。「自分の心を揺さぶる」という意味に由来するが、揺さぶるのは自分の心だけではない。「(グループの)どこに泊まってもそれぞれ特色が違うので、その地域の良さを感じていたきたい。今まで以上に唯一無二でいたい」と感動という土産を用意する。「コタン(村)がある阿寒湖で創業したこともあり、大切にしている」と言う通り、多くのアイヌの民芸品が飾られている鶴雅の旅館、レストラン。ソフト面とハード面両方が合わさって北の大地のホスピタリティを表現している。

# アイヌの愛

## 自然と文化と

## 世界に伝えたい

先人たちの築いてくれた土台を大切に

新しさも伝統も感じるおもてなしを

「これは「考える」!!」

「アイヌ文化を伝える」

「アイヌ文化を伝える」



「あかん遊久の里 鶴雅」のレラ館はアイヌ文化に特化した客室をそろえる

大西 希 (おおにし・のぞみ) 1982年(昭57)11月16日、阿寒湖町生まれの35歳。札幌聖心女子聖心女子大と進み、05年、父・雅之さんが社長を務める阿寒グランドホテルに入社。14年、鶴雅ホ-

青山 千景 (あおやま・ちかげ) 1986年(昭61)1月17日、札幌市生まれの32歳。北海学園大卒。2017年、北海道観光大使に就任。14歳でテレビCMデビューし、19

取材後記 お土産は「感動」

身ぶり手ぶりを交えながら丁寧に質問に答えてくれた